

粗製胡麻化しの跡を絶ち、場合によりては如何なる損害をも忍んで正常な商賣をやり通すと云ふ  
氣魄が、一般に漲るに至らん事を切望する。

六

## 郷土文學の提唱

野村孤月

◇我々の日常生活は非常に忙しいものである。食ふ爲めに、生きる爲めに、努力より奮闘へ！幾多の困難に打勝つて突進してゆかねばならぬものである。それは恰もレプトセファルスが幾百尋の深海の底から浮み上つて、陸を横切り高山の嶮を冒して、湖沼に辿りつく様なものである。世態人情が愈々培々セテ辛くなればなる程、我々は此のレプトセファルスの意氣と精神を以て、あらゆる罪惡や誘惡とうち克つて、意義ある生活の建設に努めてゆくべきで、一生を無意義に棒に振る様な生存で終りたくないと思ふ。

◇奮闘より自己革命へ！そこには力強い生活が開かれてゆく。我々には何事にも執拗熱心なる努力と、感激と、興味とを覺える心が必要である。生半可通な抽象智識を以て社會制度の缺陷をならしたり、經濟の革新を叫んだりして、まゝに成らない世の中を呪ふ前に自分の努力の不足と、赤裸々な自分を知ることである。自分の無修養や實力の缺乏を棚に上げて、常に自分をふりかへつて見ないものに失望や嘆聲が兎角多いのは當り前である。私は茲に郷土文學の提唱をなすに當つて、特に我々は實際の自己を知ること、實際社會に於ける實際の生活と云ふものを研究し氣づいて、自分と云ふものをはつきりと見出し乍ら生きてゆきたいのである。人生の欲望は殆んど無限である。自分を見出し得ないものは恐らく一生涯物質の奴隸となつて遂に窮極する所を知らないで一生を終るかも知れないのである。

◇自分を知れば知る程、實際の社會、實際の人間生活と云ふものが分つて來れば來る程、人は到底パンのみでは生きてゐられなくなる。其處に當然價値の人生が考へられなければならないものがある。砂漠を旅するキャラバンの群はオアシスに依つて、其の困苦と單調な旅の疲れを忘れ得る。もしこのオアシスがなかつたら我々の生活と云ふものは感激のない餘りにも干乾びた呪ふべき空虚な頼りないみじめなものである。

今や日本も純朴な僻村にまで有産階級と無産階級との争闘が日毎にはげしくなつて來た。地方振興どころではない、實際の有様をよく觀察して見ると、多くは悲惨な、つきのめされた不安な

七